

ヨースト・スミーツはオランダの指揮者でこれまでに以下の著名なオーケストラを指揮し、現在はオランダ・フローニンゲン室内フィルハーモニーの首席指揮者を務めています。

ビュルテンベルグ・フィルハーモニー・ロイトリンゲン（ドイツ）
サンクトペテルブルク国立交響楽団（ロシア）
リンブルフ交響楽団（オランダ、マーストリヒト）
チェンバー・オーケストラ・アンティナ（イタリア、フィレンツェ）
オランダ交響楽（オランダ、エンスヘーデ）
キスロボーツク州立フィルハーモニー管弦楽団（ロシア）
オランダ・シンフォニア・アムステルダム（オランダ）
ナショナル・ユース・オーケストラ（JONDE）スペイン
バカウフィルハーモニー管弦楽団（ルーマニア）
キエフ国立交響楽団（ウクライナ）
ニュー・プロフェッショナル・オーケストラ（イギリス、ロンドン）
北チェコ・フィルハーモニー管弦楽団（チェコ共和国、テプリツェ）
チェリャビンスク交響楽団（ロシア）
ピテシュチ・フィルハーモニー管弦楽団（ルーマニア）
交響楽団音楽アカデミー（スロベニア、リュブリャナ）
サンクトペテルブルク室内管弦楽団カールピジェム（ロシア）
オランダ国立交響楽団
オランダ・ユース・オーケストラ
アルハンゲリスク州室内管弦楽団（ロシア）
オランダ・ナショナル・フィルハーモニー管弦楽団（オランダ）
アンサンブル・ベルケル・バロック（オランダ）

主要な演奏評

“劇場の魔術”～ロイトリンガー・ゼネラル・アンゼーハー紙～

オランダの指揮者ヨースト・スミーツはヴェルディの「運命の力」序曲で真の劇場マジックを創り出し、コンサートを開始した。冒頭の穏やかなカデンツァは病的な運命のドラマを内包していた。指揮者によって引き寄せられた弦の響きは、触発されながら音楽の深みを突き抜けた。彼は聴衆に逃げるのでない容赦のないパワーを与えたのだ。

（ドイツ、ビュルテンベルグ・フィルハーモニー・ロイトリンゲンでの演奏評）

“フローニンゲン室内フィルでのダイナミックなデビュー”～ハインツ・ヴァリッシュ～

ほとぼしるエネルギー、しかし極端に陥ることないエネルギーは、音楽的要求の多いプログラムではヨースト・スミーツと奏者を手助けた。この指揮者の下では奏者は彼の要求や要望に対して明らかに遅れることがない。スミーツの情熱は人から人に伝わるのである。

（マーラーの「リュッケルト歌曲集」「葬送」および、ヒンデミットの「画家マチス」を首席指揮者として最初の演奏会で取り上げた際の演奏評）

“オランダの扉”～ルドミラ・モディナ～

オーケストラはオランダの指揮者ヨースト・スミーツの手をかすかに感じた。あの魔法のようにオーケストラに作用させる指揮法によって、彼はショスタコーヴィチの室内交響曲が持つ深く哲学的で美しい構成に対する関心と呼び覚ました。

（サンクトペテルブルク室内管弦楽団との演奏評）

“スミーツはチェリャビンスク交響楽団での勝利を勝ち取った”

～リュドミラ・フェドロヴァ～

スミーツの指揮の下、オーケストラは洗練された魂のこもった響きを出し、とても好印象を持った。

(ロシア、ウラルプレスでのリムスキー＝コルサコフのシェーラザードの演奏評)

“チャンバー・フィルハーモニーAaの2つの演奏会と現代の新しい世界”

～ハインツ・ヴァリッシュ～

カーラ・ルーとオーケストラは首席指揮者ヨースト・スミーツの指揮の下、メリロの世界初演後に多くの聴衆からブラボーの掛け声だけでなくスタンディングオーヴェーションを受けた。この絶え間ないテンポと拍の変化が完全に一つになる雰囲気に変化する協奏曲は雷のような拍手を受けた。バーンスタインのウェストサイドストーリーからの組曲は優れたアンサンブルだけではなく多くの情熱を要求する。いつもながら機転の利くヨースト・スミーツは柔軟にこれらの要求を彼のオーケストラとともに満たすことができた。

(バーバー、バーンスタインとステファン・メリロのバイオリン協奏曲世界初演 (バイオリン: カーラ・ルー) を含むアメリカ・プログラムの演奏評)

マエストロ・スミーツはこれまでにアメリカの作曲家スティーブン・メリロのバイオリン協奏曲やロシアの作曲家ヴァシリー・シースキャンの室内オーケストラのための組曲、オランダの作曲家マリン・シモンズ・マリアヒの”Ti Te Toca opus 23d”を含む多くの重要な世界初演を行ってきました。今後は首席指揮者としてチャンバー・フィルハーモニーAa や以下のオーケストラとの共演を予定しています。

リンブルフ交響楽 (オランダ、マーストリヒト)
ボイジーフィルハーモニー管弦楽団 (アメリカ)
チェンバー・オーケストラアンティーナ (イタリア、フィレンツェ)
タマウリパス州立オーケストラ (メキシコ)
ムルマンスク、ロシア・フィルハーモニー管弦楽団
トムスク・フィルハーモニー管弦楽団 (ロシア)
サンクトペテルブルク室内管弦楽団”カルペディエム” (ロシア)
国立室内フィルハーモニー管弦楽団 (オランダ)
サマラ国立フィルハーモニー室内管弦楽団 (ロシア)
ピテシュチフィルハーモニー管弦楽団 (ルーマニア)
アンサンブルベルケルバロック (オランダ)

以下のソリストとの共演もしてきました。

エルンスト・ダニエルスミート (バリトン)
エルスケ・テ・リンダート (ソプラノ)
アナスタシア・ゴールドバーグ (ピアノ)
マージョ・ラメロウ (ソプラノ)
アレクサンドル・マライラー (バイオリン)
ウロス・ペトラツ (テノール)
カーラ・ルー (バイオリン)
ノエル・ヴァイトマン (チェロ)

ターニャ・ソック（バイオリン）
エリーネ・ハーベース（アルト）
ヴィオレラ・チューキュア（ピアノ）
アンユールトゥ・ロトフィル（アルト）
チャールズ・ウェフェン（ピアノ）
ハヨー・ブールマ（オルガン）
トールバルト・ヨルゲンセン（テルミン）

スミーツはアーヘンのケルン音楽院でチューバを学びました。1996年からオランダ交響楽団の首席奏者となり、1999年にはリンブルフ交響楽団の首席チューバ奏者として活躍。2000年にはオランダ、エンスヘーデのアルテシュにて講師に任命されました。近年、多くのオーケストラと共演を重ねています。

ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団（アムステルダム）
オランダ交響楽団（エンスヘーデ）
リンブルフ交響楽（マーストリヒト）
ヒルヴァーシュム放送フィルハーモニー管弦楽団
ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、
オランダ・フィルハーモニー管弦楽団（アムステルダム）
ヒルヴァーシュム放送室内フィルハーモニー管弦楽団
ハーグ・フィルハーモニー管弦楽団
シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭管弦楽団

以下の著名な指揮者のマスタークラスに参加し、研鑽を積んできました。

ベルナルト・ハイティンク
ヴァレリー・ゲルギエフ
エフゲニー・スヴェトラノフ
ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー
シャルル・デュトワ
ネーメ・ヤルヴィ
マリン・オールソップ
ハンス・フォンク
エド・デ・ワールト
ヤーブ・ヴァン・ズヴェーデン
ゲルト・アルブレヒト
ジャン・フルネ
カルロ・リツィ
ドミトリー・キタエンコ
エナード・スラットキン

ヨーロッパだけでなく日本、ロシア、アメリカ、インドネシアを含む広い地域で演奏活動を行っています。

www.joostsmets.com